

「福島から反原発の訴え。放射能被害・生活破壊を許すな！ 2・25 講演集会」 決議

■昨年3月11日から早一年がたとうとしている。福島原発事故は未だ収束の気配さえみえない。福島の人々の多くが故郷を追い立てられ、その生活の再建は困難な状況にある。事故で撒き散らされた放射性物質は国内外の労働者階級人民の生命を脅かし、とりわけ青年・子どもという次世代に深刻な影響を与えている。

福島の子どもたちに「甲状腺がんの疑い」という一部報道もある。子どもたちの生命と生活は保障され、守られなければならない。同様に現在も原発で作業している労働者の生命と生活は保障されなければならない。原発労働の被曝線量は最低限に抑えられなければならない。

■これら事態の一切の責任は東京電力・電機大資本と日本政府にある。原発の「安全神話」の崩壊は余りにも明らかである。

われわれAWC首都圏は、あらためて全ての原発の即時停止を勝ち取るために闘っていくことを決意する。人類と核は共存できない。われわれは被爆二世・三世とともに反戦反核－反原発を闘ってきた地平を堅持する。そしてAWC－CCB会議で確認された「原発の全廃を求める国際決議」の立場で全ての原発を廃炉にするために闘っていく。

■2012年1月28 - 29日、ソウルで開催されたAWC－CCB会議は韓国・台湾・日本・アメリカ・フィリピンの反帝国主義を闘う労働者・民衆が結集し、以降数年間における国際共同闘争の方針を確認した。韓国政府による入国拒否弾圧をはねのけ、CCB会議は成功を収めた。ここで確認された決議は国際的な責務を負うものである。すなわち、われわれは国際的任務として反原発の闘いに取り組まなければならない。

■今年3・11は全国各地で反原発の闘いが取り組まれる。福島現地、関西、九州等で大規模な闘いが予定されている。一方、政府主催の天皇を動員した「追悼式典」が計画されているが、絶対に許してはならない。今必要なのは天皇制による「追悼」などではけっしてない。今必要なのは、原発事故の責任を追求する「怒り」である。原発の全廃を求める大衆行動である。

全国のAWC勢力は3・11に全国各地の人民の怒りと結合して闘う。首都圏においては、福島の人々が呼び掛ける福島現地・郡山集会に結集して闘う。全国各地における反原発の全人民的運動の前進を勝ち取ろう。

■われわれは福島の人々の怒りと連帯し結合する闘いとして、福島現地集会に結集する。原発の輸出と再稼働を許すな！本日結集された皆さん、3・11福島現地・郡山で再会しよう！

以上決議する。

2月25日集会参加者一同